

団体名		公益財団法人 武蔵野市子ども協会						
①	指標名	境こども園の年内開園			目標値	年内に開園し、待機児童解消に寄与する	実績値	12月正式開園
	過去の実績	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	100.0%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位:)	準備室	準備室	児童館事業として実施				
	取組内容	※25年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①事業者や施設課と綿密な協議を行って工程監理し、予定どおり10月に竣工することができた。 ②工事の進捗状況に応じて移転説明会を行い、保護者にも大きな不安なく移転・竣工を待つことができた。 ③工事の進捗を見ながら募集時期を保育課と協議し、1月に追加募集園児を受け入れることができた。 ④幼児クラスは遠足やお誕生会などの合同開催、お散歩での交流等を行い、新園舎での合流で大きな混乱なくクラスをスタートすることができた。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 震災復興等で人員、資材が不足し工程が遅れる工事が多いなか、力のある業者を確保し、円滑な協議を心掛けることで工程に無駄や遅滞がないように努め、無事に予定どおり竣工することができた。保護者への周知、市との募集時期・方法の調整等もしっかり行うことで混乱なく正式開園、追加募集・入園も実施できた。また、離れた分園でコミュニケーションがとりづらくなか、様々な取組で新園舎の保育につなげることができた。						
二次評価	建築事業者の倒産という状況乗り越え、12月に正式開園したことは高く評価する。市内初の認定こども園ということで注目されると思うが、子どもが落ち着いて保育を受けられる環境を第一に考え、滞りなく運営を行うこと。							
②	指標名	認定こども園財務会計の確立			目標値	保育料の未収を防止と、認定こども園会計へのスムーズな移行	実績値	滞納繰越はなし、会計は移行中
	過去の実績	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	90.0%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位:)							
	取組内容	※25年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ① 認可外と認定こども園の会計区分を実施し、市に実績報告を行った。 ② 区分経理、按分ルールを決めるのに時間を要したが、26年度の本格実施に向けて概ね定めることができた。 ③ 千川、桜堤保育園との食材費の区分については、混乱なく実施できた。 ④ 全て口座引き落としで行うことにはご理解いただき、口座の残高不足で翌月に納付といった滞納のみで、最終的な納付率は100%であった。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 新しい園運営に際しては、人の具体的な運用や物資の購入ルール等、すぐには決まらないものも多く、運営をしながらルールを整備せざるを得ないところがある。ただし、市への実績報告等、必要な処理は無事行うことができた。今後は園運営が軌道に乗るのに合わせてより合理的に業務が進められるようにしたい。保育料に関しては、意図的な滞納者はゼロであり、全員口座引き落としにした成果がはっきり出ている。						
二次評価	区分経理・按分ルールを定め、本格実施時のスムーズな移行を実施したこと及び保育料納付率が100%であることは評価する。認可保育園についても、段階的に延長保育料等すべて口座引き落としに移行するなど事務の効率化も合わせて検討すること。							
③	指標名	人材確保に向けた取り組みの充実			目標値	さらなる弾力化や定数増にも対応できる人材確保手法の検討	実績値	募集手段等を工夫し、人材を確保した
	過去の実績	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	90.0%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位:)							
	取組内容	※25年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。 ①ハローワーク、民間ホームページや求人冊子等を活用して募集を行った。 ②事務局で学校訪問を行うほか、若手職員に母校での就職セミナー等への積極的な参加を促し、学校からの募集者を確保した。 ③嘱託、アルバイトに関しては、近隣の募集要件等の調査を行った。 ④アルバイトが一番確保できない状況を鑑み、応募のない部分に関し、派遣職員の活用も行った。						
	一次評価	※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。 都内の求人倍率が3倍前後という保育士求人難の状況で、上記の取組を実施することで正規職員、嘱託職員は無事に確保することができた。アルバイトに関しては、最低賃金が大きく上昇するなか、確実に市場の雇用条件は向上しており、長年変わらない市の単価では優位性はなくなりつつある。広報手段の工夫では確保は困難な状況であり、単価や通勤費等の条件の見直しは不可避である。						
二次評価	保育士が不足しているという状況は理解する。人材の確保について、今後とも上記取組みを継続すること。単価の改定については、近隣比較を行い、主管課ともよく協議すること。							